

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成28年度第3・四半期
(平成28年10~12月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 28 年 10～12 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向	23
4. 特別調査「2017 年（平成 29 年）の経営の見通し」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 平成 28 年 10 月～12 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	91	90
卸 売 業	28	26
小 売 業	48	46
サ ー ビ ス 業	56	54
建 設 業	36	34
合 計	259	250

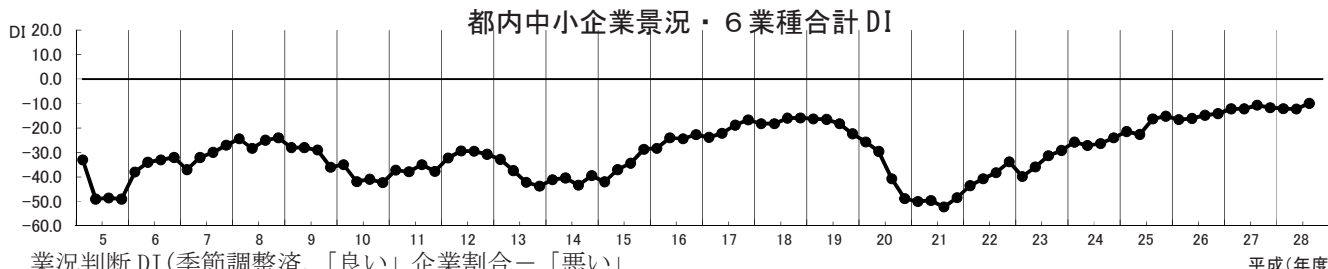
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成28年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

6業種中5業種で業況改善、卸売業は横這い
～不動産業が好転し、建設業とともに業況判断DIがプラスとなる～



業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合-「悪い」企業割合)は-9.9(前期は-12.3)と前期に比べ2.4ポイント改善した。業種別に見ると、不動産業で大きくプラスに転じ、建設業で多少良好感が強まった。製造業・小売業・サービス業で水面下ながらわずかに改善した。一方、卸売業は前期同様の厳しさが続いた。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-11.8	-9.3	2.5	-7.9	1.4
卸 売 業	-13.7	-14.9	-1.2	-11.5	3.4
小 売 業	-26.8	-24.8	2.0	-24.1	0.7
サ ー ビ ス 業	-12.8	-10.3	2.5	-6.5	3.8
建 設 業	7.9	10.4	2.5	11.7	1.3
不 動 産 業	-0.5	6.0	6.5	5.8	-0.2
総 合	-12.3	-9.9	2.4	-8.2	1.7

来期は、卸売業・サービス業は水面下ながら改善すると予想している。

<製造業>

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額・受注残・収益は幾分持ち直した。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で、原材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「精密機械」「建設用金属」はプラスに転じた。「輸送用機械」はやや軟調に推移し、「化学工業」「プラスチック」「電気機械」は前期同様変化がなかった。「金属製品」は大きく持ち直し、「一般機械」「食品」「プレス・メッキ」「繊維・衣服」「紙・紙加工品」「印刷関連」「木材・家具」はわずかに厳しさが和らいだ。「ゴム製品」「皮革関連」はやや深刻さを増した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くともみている。売上額は水面下ながら改善し、受注残・収益は今期並の減少が続くと予想している。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益ともにやや低迷した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は若干上昇が強まった。

業種別では、「機械器具」はわずかに上向き、「化学製品」「建築材料」は幾分厳しさが和らいだ。「鉱物・金属材料」は前期同様の厳しさが続いた。「繊維・衣服」はやや低迷し、「食品・飲食品」はかなり深刻さを増した。

来期の業況は持ち直すともみている。売上額・収益は水面下ながら改善すると予想している。

<小売業>

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額はやや持ち直し、収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格は多少下降が改善し、仕入価格は幾分上昇が強まった。

業種別では、「スポーツ用品・玩具」「ガソリンスタンド・燃料」は大きく持ち直し、「飲食品」「繊維・衣服・身の回り品」「書籍・文具」「カメラ、時計・眼鏡」はやや厳しさが和らいだ。一方、「医薬品・化粧品」はわずかに低調感を強め、「自転車・自動車」は大幅に業況感が落込んだ。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くとも予想している。売上額・収益は水面下ながら改善するとみている。

<サービス業>

業況は水面下ながらやや上向いた。売上額・収益はわずかに改善した。価格面では、料金価格はほぼ横這いで推移し、材料価格は前期同様高い水準が続いた。

業種別に見ると、「自転車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」は若干厳しさが和らぎ、「情報サービス・調査・広告」は前期同様変化なく推移した。

来期の業況は引き続き水面下ながら上向くとみている。売上額・収益はともに回復の兆しが見えると予想している。

<建設業>

業況は多少良好感が強まった。売上額・受注残・施工高は幾分強含み、収益は前期並の増益で推移した。価格面では、請負価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「職別工事」「設備工事」はやや好調感が増した。「総合工事」は前期並の良好感が続いた。

来期の業況は良好感が強まると予想している。売上額・収益は堅調に推移し、受注残は今期同様の増加が続くとみている。一方、施工高は伸び悩むと予想している。

<不動産業>

業況は大きくプラスに転じた。売上額・収益は多少好調さが強まった。価格面では、販売価格、仕入価格ともにやや上昇を強めた。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。